

令和2年第5回室蘭市社会教育委員の会定例会会議録（要旨）	
日 時	令和2年10月15日（木） 10時00分～11時40分
場 所	2階大会議室
出席委員	阿知良委員長、三村副委員長、井形委員、大須賀委員、大平委員、小野委員、後藤委員、中村委員
欠席委員	石井委員、佐野委員
事務局	國枝教育長、成田教育部長、西館教育次長、佐々木主幹、大澤主幹、木村主幹、伏見館長、谷中主査

<議事報告>

【日程1】

報告第1号 令和2年第3回室蘭市議会定例会について

（事務局）事務局より説明した。

（質疑応答）

（A委員） 旧絵鞆小学校校舎の質問で、日本語学校として活用を検討していたとあるが、この学校の設置は市なのか、民間なのか伺いたい。

（事務局） 校舎棟2階の活用対外的に呼びかけたところ、民間の日本語学校の動きが示されたもの。

（A委員） 選ばれるまちづくりという質問が出ていたが、本市は観光や施設、食、産業など魅力あるまちだと関心を持ってもらうことが大事と考える。また、さらなるスポーツ環境の充実とは、どのようなことか。

（事務局） 学校の統廃合で体育館など活動施設が少なくなることに對し、もっと活動する床面積を広げるとのこと。

（A委員） 学校統廃合の一方で施設が少なくなるのは理解する。また、指定管理施設の利用者として、指定管理者も生涯学習を推進するという意識を持っていただきたいと感じる。市民団体が講演会などを主催する場合、会場となる施設が保有する非接触型体温計の貸し出しについて配慮して欲しい。

（事務局） 市民活動センター登録団体の場合、市民活動センターで非接触型体温計の貸し出しを行っているので、ご活用いただきたい。

（A委員） 生涯学習センターの貸出しは利用した。

（B委員） 社会教育の事業に日本語学習支援がない。学齢期が終わった後の日本語学習支援について検討が必要と思う。また、環境科学館・図書館は施設で学ぶことが大切なので、観光的な視点で利用人数を目標とするのではなく、市教委としての視点で進めていただきたい。

【日程2】

報告第2号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書（令和元年度実績）について

（事務局）事務局より説明した。

(質疑応答)

(A委員) 難しい言葉には注釈も入っていてわかりやすかったが、一般の方に見ただくには堅い表現ではないかと感じた。いじめがなくなってきたのは先生の努力の成果。不登校がわずかに増えている原因は捉えているのか。また、給食費滞納者のうち困窮して支払えない人の把握はどうしているのか。

(事務局) 不登校は各家庭でそれぞれ理由が異なり、画一的に整理できない問題である。担任が定期的に家庭訪問して家庭環境をフォローするほか、子ども包括支援センターや保健師など相談員が家庭状況を把握して個別に対応しており、うまく登校につながるケースもある。また、給食費滞納者には、納付相談で対応している。支払い能力があるのに納めない悪質な者は弁護士に依頼して法的な対応をする。コロナで収入減の家庭もあると考える。丁寧な対応で臨んでいる。

(B委員) 不登校に関しては、児童生徒の生活に関するアンケート結果と、コロナ禍の休校期間では、生活リズムの実態がずれていると考える。生活リズムの乱れなどの振り返り検証をする必要がある。

(C委員) 休校中は宿題も出ていたが、学力の差が出てきたと感じる。勉強している子としていない子の差が両極端に広がっている。塾に通う子はオンライン授業の時間が決まっているため、生活リズムが狂わないようにできたが、そういう環境にない子は学習時間を自己管理するのが難しい。学力の差が出ると大変だと思う。来年度からのGIGAスクールでタブレットの使い方はどうなるのか。

(事務局) オンライン授業だけが全てとは考えていないが、国は究極的にオンライン化を目指している。家庭に環境がなくても貸し出しできるものを学校に備え付け、できない人が出ない環境を作る。委員が仰るとおり、今年、学力の差は出ていると思う。一斉休校になり、プリントを出すなど家庭学習できるよう学校も努力をしたが、一方で規則正しく時間をコントロールするには、家族の理解も必要。学校再開後は、勉強以外に一人一人の悩み相談に乗るよう取り組んでいる。夏休み明けは自殺者が多いと言われているので、とりわけ丁寧に対応している。学力の下部の底上げが公的教育では大切と考えるので、学校と協力していきたい。

(A委員) 家庭学習の習慣化が大事。コロナによる休校で、家庭学習が身についた子とそうでない子の差が一気に出ている気がする。

(B委員) 学校だけでは厳しいので、保護者とどうしたら一緒にやれるか考えていただきたい。

【日程3】

報告第3号 室蘭市芸術文化表彰について

(事務局) 事務局より説明した。

(質疑応答) なし)

【日程4】

報告第4号 室蘭市生活伝承者表彰について

(事務局) 事務局より説明した。

(質疑応答)

(B委員) 受賞者は左官業の方。これを機に小学生など広く左官について知ってもらい、

伝承していただけたらと思う。

【日程5】

報告第5号 室蘭市青少年及び青少年育成者表彰について

(事務局) 事務局より説明した。

(質疑応答 なし)

【日程6】

報告第6号 室蘭市スポーツ表彰について

(事務局) 事務局より説明した。

(質疑応答 なし)

【日程7】

報告第7号 11月・12月行事予定について

(事務局) 事務局より説明した。

(質疑応答 なし)

【日程8】

研究協議1 室蘭市社会教育前期推進計画評価について

【日程9】

研究協議2 室蘭市社会教育中期推進計画(素案)について

(事務局) 関連があるため、日程8と日程9を一括して事務局から説明した。

(質疑応答)

(A委員) 前期の評価はよくまとめていた。前期と中期のつながりはどれだけあるか。前期の課題をすくえる仕組みができると良い。

(事務局) 研究協議2の参考資料、対比表の左側が前期計画と評価、その課題を踏まえて右側に中期計画の素案になっているので、あわせてご覧いただき、疑問点を出していただきたい。

(B委員) 社会教育は地元生活者のニーズが命であると感じるので、地元からどんなニーズがあるかを拾って、新規事業や廃止事業の流れができると良い。関係するところの困りごとが解決される事業になっているかという視点があると良い。

(A委員) コミュニティ・スクールと社会教育委員の会との関わりがあまり感じられないが、どういう学校づくりを目指しているのか。理解されないと地域に協力を求めるのは難しいと考える。

(事務局) 地域と学校の交流に意義がある。地域の力を子どもに使うのは大切だが、学校がそれに甘えては困る。学校も地域作りに何ができるか考えてWin-Winの関係になるようにしたい。新しいものではなく、地域と学校の課題がつながるようなものにしたい。

(A委員) 地元のお祭りを親が手伝い、児童が参加している。大変だろうが先生にも参加して欲しい。子ども達が喜ぶと思う。

(C委員) お祭りの見回りを兼ねて教員が参加している中学校もある。

(B委員) 学校と地域に関してはすれ違いがあると思う。学校にも地域にも新しいことが増えるのではなく、今まで行ってきたことに光をあてて、それが結果的にコミュニティスクールとなればよい。

- (A委員) 町内会も高齢化している。協力したい気持ちはあっても、できないこともある。地域と学校互いの負担になってはいけない。互いに期待しすぎず、負担が増えないよう、研究・実践して欲しい。
- (事務局) 無理に学校や地域に求めるものではなく、地域の中にいる人たちで出来る範囲で進めていきたい。
- (A委員) 地域の人材活用し、小さく行うのが良いと感じる。

次回開催日 12月17日(木)